

第3回議会報告会

●第1部 議会報告への質疑応答（一部）

問 地方創生でどれほどの予算が組まれているのか。

答 平成26年3月時点で、地方創生関連の予算としては、地域消費喚起生活支援型として生活支援商品券給付事業1億524万8,000円、商工業推進事業4,478万7,000円、また地方創生先行型としまして定住促進住宅補助事業1,202万円、定住促進空き家対策事業2,271万8,000円、オリジナル住宅構想事業735万6,000円、子育てホットクーポン活用事業987万円となっております。

問 介護保険の関係です。平成24年には一般会計から4億5,000万円を繰り上げて基準額の6,250円になっておりますが、これからの状況、それから今後については。

答 今、全国で125番目。全国的に介護保険が上がっています。大分県では確かに1番高い。今後介護保険料が今のおりおさまるかどうかは難問があるわけですけど、しかし担当課としては、介護保険料を上げないためにも、いろんな努力をされています。

問 地籍調査のことです。10年経ったら、境界を教える人間はおりません。地籍調査の進捗状況をお知らせ願います。

答 市全体で47%の進捗率です。

●議員定数についての意見（一部）

- 臼杵が4万960人で、18人。一人当たり2,274人です。臼杵がこれのできるなら、18人でいいのでは。
- 10年後20年後の人口の状況を見たとき、減っていく。それに伴った人数の減少ということになっていくだろうと思う。議論していただいて、一番その人口にあった、また常任委員会などの条件ができる最低の定数、それを是非とも決めていただきたい。
- 議員定数は、現在の22名、豊後大野市は7町村という大型合併です。従って市民の意見をしっかりと議会の中で、検討いただく。22名これは堅持すべきだと思います。絶対に減らさないでください。
- 各町から定員1名は必ず出る。あとは何人いてもいいが、その定数を各町にささげていただきたいと思う。
- 類似する市ととりあえず同じにする。そして豊後大野市の財政をみながら、増減を検討する。
- 10名が妥当だと思います。6人でよいという人もいる。だからもう少し濃い、濃密な動きをしていただきたいと思います。
- 議員定数もほんとに市民に寄り添って、議員がこんな活動したんだと身近に感じたのであれば、必要だなんてことは出てくるんですが、存在している密着感というかそういうものがなかなかない。

●地域創生についての意見（一部）

- 県立農業大学校、これは本当にすばらしい大学校があるわけですから、ここの連携をとって、埋もれていた施策をそこに集約して、市に残る人には、授業料免除ぐらいの思い切った施策しながら、後継者を育てていくとか、農業に力を入れてほしい。

- 年金の支給がどんどん繰り下がっています。定年して帰ってきても、ある程度仕事しないと、年金だけでは生活ができない。農業すればいいというものの、もう何十年も離れた人間が農業で生計を立てられるかという、なかなかそうはいかない現状だと思う。だから、勤めるところがたくさんあればいいが、なかなかいかない。帰りたいけど帰れない現実の中で生活ができない。

- 保育園や親などに子どもを預けることが出来なかったり、預ける場所がないことでよそに出ていくということもあると思います。自分の親だけでなく地域の、まだまだ元気だけでも仕事をされてない方に気軽に預けることができるような場所が提案できれば、豊後大野市で、子育てもしながら働くこともできるだろうし、Uターン、Iターンも視野に入れた地方創生も必要かなと思います。

- 産業振興と住民のケア、この2つがお互いに発展していけば、非常に住みやすいまちになるのですが、産業振興はほんとは取り組んでほしいなということと、女性の働く場所を。